

デイケア通信

今年度もいよいよラストとなりました。寒暖差も激しく体調管理が難しいですが元気にご利用頂けるように頑張っていきたいとおもいます。

先月の活動の様子

・鯉のぼりのちぎり絵

季節先取ですが鯉のぼりのちぎり絵制作に取り組んでいます。貼り付けているのは広告用紙です。

色を考えながら貼っていく事で脳トレにもなりそうですね。無言になるほど集中して取り組まれているご利用者様もいました。



・カレンダー作り

作品作りとして3月のカレンダーを作りました。表情がそれぞれのお雛様の折り紙を作り素敵なカレンダーが出来あがりしました！！





リハビリの紹介



理学療法士の村上です。今回は、転倒し左大腿骨頸部骨折にて入院、退院同日に転倒、左人工骨頭のゆるみのため再手術を施行した F 様のリハビリの様子、その後の在宅生活の様子についてご紹介します。

F 様は 80 代男性で、ご家族と同居していますが、日中はお一人となるため入院前は身の回りのことは自分で行っていました。F 様の最初の目標は、「自宅で転倒することなく過ごす」でした。そのために、全身の耐久性や左下肢の筋力の向上を目標にしました。

F 様は左大腿骨骨折、さらに再手術の影響により左下肢の筋力低下が著明で歩行の際にすり足、補助具の使用が無いと体が沈みこむ様子がありました。リハビリをしていく中で筋力の向上があり歩行の安定性の向上もみられました。

利用開始約 3 ヶ月後、ご本人様より「2 階に行ってベランダで洗濯物を干したり、着替えをとりに行きたい」とお話がありました。初回訪問では生活スペースは 1 階だったため 2 階の環境の把握ができておらず、再度、家屋・動作評価のため訪問にきました。2 階への階段は急でしたが、手すりと壁を使用し昇降はできていました。ベランダでの洗濯物干しに関しては、つかまるところがないスペースが多く、段差もあるため転倒リスクが高く危険と判断し、1 階で部屋干しするよう提案しました。

階段昇降や家事動作を行うことは転倒リスクを伴いますが、生活リハビリとしては有効です。また、ご本人様のやりたいという意欲に対してすべて否定するのではなく、安全性を見極めた中で「できること、やっていいこと」と「やってはいけないこと」の判断をすることもセラピストの役割だと考えています。

F 様は退院後から現在まで転倒無く過ごすことができています。リハビリ会議の中で、ご家族様やケアマネジャーとご自宅での生活を確認しながら、リハビリメニューに活かすことができています。今後も、転倒無く F 様がやりたいことをしながら在宅生活が継続できるようリハビリを実施していきます。

